

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成21年6月～平成25年3月(3年10月)

1. 概況

認定基本計画に掲げた主な事業の進捗状況については、「マチ」と「みなと」の一体化と魅力のある都市構造の形成に向け進めている再開発事業による複合交流施設整備（再開発ビルを主とした駅舎、交流施設、住宅整備等や、交通・情報・観光・暮らしの総合拠点）の第1期が完成し、バスターミナル、映画館の供用を開始した。引き続き、JR駅舎、臨港の24時間トイレ、駅前広場・交差点整備が進められ、平成24年春の全体供用へ向け順調に推移している。また、みなと側では、駐車場整備、緑地整備が行われ連動した整備が進行している。

中心市街地の現況としては、依然として厳しい経済情勢と南地区への人口集積が進み、廃業による空き地が目立ってきている反面、空き店舗は平成19年の40店舗から、平成22年で35店舗と微減している。

また、チャレンジショップからの独立開業や新規店舗の開店も微増ながら見られ、新旧店舗の入れ替えが起きてきている。商店街振興では、商店街の再生に向けた稚内中央地区商店街振興計画が策定・事業開始され、個店のホームページ開設やポイントカードの導入、おやすみ所ステッカーなど事業起動について、メインストリートプログラムによる実践を行っている。活動に当たっては、商店街振興組合を中心に、商店街の青年経営者や市民活動ボランティアが参加し、イベントや様々なまちづくり活動を実施しており、連携と協働の体制が構築されてきている。

また、まちなか居住では、後背地になる北地区での「公営住宅宝来団地 2期工事40戸」の工事が開始され、今後の複合交流施設整備での高齢者住宅整備やまちなか団地整備と合わせて、居住人口の増加が期待される。

基本計画認定以降、1年10ヶ月を経過し、掲載44事業のうち、28事業について実施中又は完了し、進捗率としては約60%となっている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
「街歩きが楽しいマチ」づくり	歩行者交通量	938人 (H19)	1,079人 (H24)	1,083人 (H22)	—	①
「住みたい・住み続けたいマチ」づくり	定住人口	2,576人 (H19)	2,584人 (H24)	2,367人 (H22)	—	③
「人が集まるマチ」づくり	年間主要施設 入込客数	240,900人 (H19)	427,100人 (H24)	260,610人 (H22)	—	③

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①「街歩きが楽しいマチ」づくりについては、再開発ビル(複合交流施設整備)の第1期オープンにより、バスターミナルの移転や映画館が開設。現在、映画館入館者5,000人/月、施設入館者17,500人/月と順調に来訪者を増加させており、結果として駅前広場前を中心とした歩行者交通量も増加している。

また、まちなか周遊についても、今年度とりまとめた「中心市街地周遊動線調査」に基づき、中心部の周遊動線に合わせた歩道と案内サインの整備を行っている。

今後、さらに平成24年の施設全体供用により、新築のJR駅舎や地域交流センターによる多世代サロン、プレイセンター、高齢者向け賃貸住宅等が開設されることから、引き続き、まちなかへの集客効果と、回遊性が漸増されるものと見込んでおり、目標達成は可能と考える。

②「住みたい・住み続けたいマチ」づくりについては、廃業による空き地の増加と依然として南地区への人口移動が止まらない状況にはあるが、地価の推移も徐々に下げ止まり傾向を示しており、わずかながら中心市街地での建替えやリフォームも増加しつつある。

今後、再開発ビルでの高齢者住宅整備やまちなか団地整備、後背地になる北地区での「公営住宅宝来団地 2期工事40戸」の完成等により、さらには、中心部での交通機能の集約や交流施設やプレイセンター等のアメニティ機能など、新たな居住を支える機能集約により、まちなか居住者の増加を促すものとする。

平成24年度には、駅周辺の再開発事業が完了することから高齢者住宅整備と合わせて、居住者の増加が図られると予想しており、目標達成は可能と考える。

③「人が集まるマチ」づくりについては、現在、①・②の事業の核となる、複合交流施設整備が順調に推移しており、第1期の供用開始により、月平均17,500人が利用しており、今後も平成23年4月からのJR稚内駅への移行、平成24年春での第2期の工事完成による地域交流センターや店舗オープンにより、本来の集客力が発揮されるものと予想される。

さらに、これらの施設と臨港駐車場、24時間トイレを一体として、日本最北の「道の駅」として、指定することで、鉄道と併せた日本最北の観光ポイントとしても集客が高まるものと予想している。

このことから、平成24年度以降には、目標達成が可能と考える。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない

5. 今後の対策

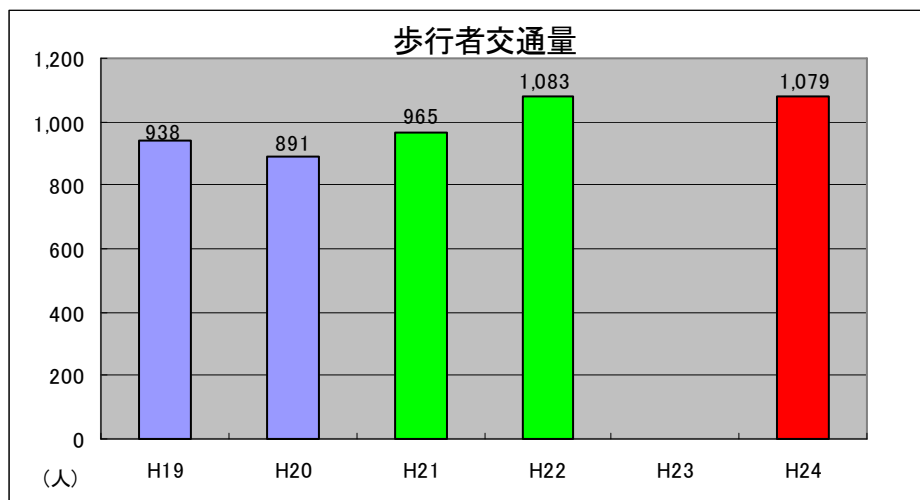
基本計画の実施1年10ヶ月を経過し、賑わい創出へ向けた施設整備、ソフト的な取り組みも徐々に成果が出始めており、引き続き計画掲載事業の積極的な推進により、目標達成を図りたい。

今後は、中心市街地での空き地、空き店舗の増加に対応して、民間による商業活動、事業活動、文化活動を刺激し、結果としてまちなか居住へつながる新たな事業施策の検討・導入を進めたい。

II. 目標1「まち歩きが楽しいマチ」づくり

「歩行者交通量」※目標設定の考え方基本計画 P80～P86 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H19	938 (基準年値)
H20	891
H21	965
H22	1,083
H23	
H24	1,079 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年8月実施）

※調査月；平成22年8月実施 10月取りまとめ

※調査主体；稚内市

※調査対象；中心市街地来訪者（調査ポイント＝中心市街地の3箇所）

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 稚内駅前地区第1種市街地再開発事業（稚内駅前地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】第1期 平成22年3月完成 【未】第2期 平成24年3月まで
事業概要	「マチ」と「みなと」が一体となった魅力ある都市構造の形成に向けて、JR 稚内駅周辺を「複合交流施設（駅舎・交流施設・住宅整備等）」として、交通・情報・観光・暮らしの総合的な拠点として整備する事業。
事業効果又は進捗状況	バスターミナルの移転と映画館の開設により、月平均5,000人の集客を行っている。また、施設の入館者は、月平均17,500人となっており順調に利用者数が伸びている。 引き続き、JR稚内駅、港湾緑地整備によるトイレ、駐車場の整備が行われており、平成24年3月には、第2期として高齢者向け賃貸住宅等の整備を終え、全体として当初予定の集客効果を発揮するものとする。

②3.5.13 北浜通（稚内市）

事業完了時期	【未】平成24年3月
事業概要	駅前交差点である北浜通（2車線）と国道40号（4車線）との車線接続が不整形であり、自動車・歩行者通行の安全性が確保されていないことから、この度の駅前広場整備に合わせて不整合な交差点を解消整備する事業。

事業効果又は進捗状況	直交 4 差路の交差点形成と歩道整備により、自動車及び歩行者の安全性確保と「マチ」～「みなと」の歩行者の回遊性が高まる。
------------	--

③駅前広場整備事業（北海道）

事業完了時期	【未】平成 24 年 3 月
事業概要	J R 駅舎の新築に伴い、駅前広場の拡充整備を行う。
事業効果又は進捗状況	駅及びバスターミナル利用者の円滑な交通処理と利便性、安全性の向上が図られる。また、「マチ」～「みなと」への豊かな歩行者空間が確保されることから、中心市街地への回遊性が高まり、活性化に寄与する。

④国道 40 号整備事業（国）

事業完了時期	【済】平成 24 年 3 月
事業概要	再開発施設と連携する歩道整備により、バリアフリー対応の一体感のある歩行者空間を確保し、車両及び歩行者の安全性の向上を図る。
事業効果又は進捗状況	再開発ビルに接する歩道の高質整備により、歩行者の安全と快適性が高まった。このことにより、より一層、歩行者の回遊性が高まる。

⑤中心市街地周遊動線調査（稚内市）

事業完了時期	【済】平成 22 年 12 月
事業概要	集客力の大きい稚内駅前や副港市場、中央商店街、北埠頭、中央埠頭地区を周辺にある歴史的建造物や空き地の利用を絡めて、有機的にネットワーク化し、観光客や市民の周遊する動線計画を実現化するための仕組みづくりや手順の調査検討を行い、中心市街地内の散策路整備の方針整理を行う。
事業効果又は進捗状況	この調査に基づき、推奨ルートとして 3 つのコースの指定と、回遊性を高めるため歩道整備や案内サイン、休憩機能等の整備を進めており、より一層、歩行者の回遊性が高まる。

⑥賑わい再生拠点施設整備事業（株稚内駅ビル開発）

事業完 時	【未】平成 24 年 3 月
事業概要	複合交流施設整備として整備される再開発ビル内に商業床を平成 23 年度で取得し飲食・物販テナントを導入する。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年 6 月に、第 1 期としてバスターミナルの入居と、3 スクリーン、250 席の小規模なシネコンのオープンにより月平均 5,000 人ほどの観客を動員している。第 2 期の平成 24 年 3 月の全体完成時には、産直販売や飲食等の店舗入居と「道の駅」指定により、一層の集客力が高まる。

⑦地域交流センター（稚内市）

事業完了時期	【未】平成23年3月
事業概要	再開発ビル内に、公共床として、吹き抜けのアトリウムや、くつろぎ・憩いの空間としての多世代交流ロビー、子供向けプレイセンター、まちなか情報コーナー、町内会活動・研修会議室等の施設機能を整備する。
事業効果又は進捗状況	地域交流センターの整備により、中心市街地への賑わい創出及びコミュニティの向上により集客機能が高まるものとする。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者交通量については、中心市街地活性化事業を講じない場合、まちなかの3地点の平均日歩行者交通量が、年平均45人程度の減少を予測しているが、複合交流施設利用者による増加、道の駅利用者の周遊による増加、地域交流センター利用者による増加、映画館利用者による増加、各種イベント参加者による増加を見込んでいる。

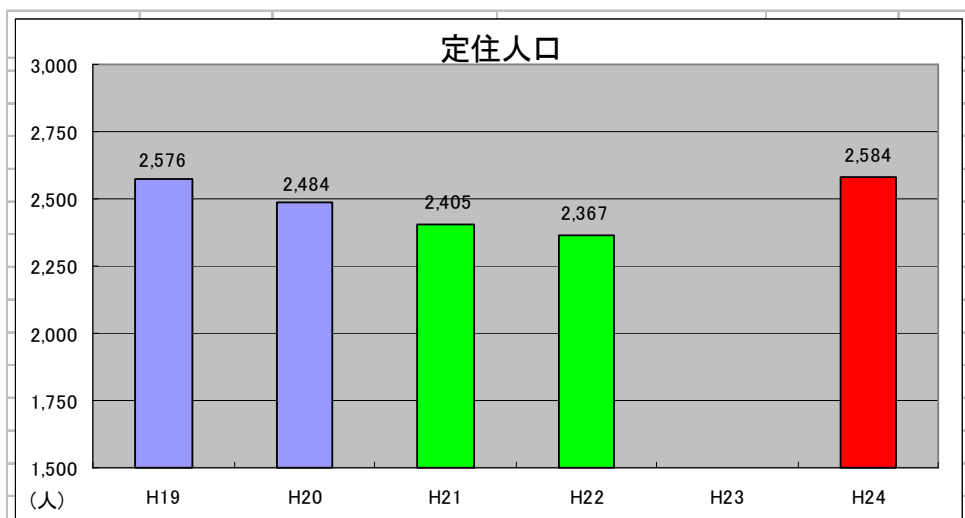
今年度は、再開発ビルの第1期工事を完了し、増加要因である映画館の供用が開始され、当初見込みである観客動員数の月平均5,000人を維持している。今後は地域交流センター機能のまちなかでの滞留、きれいなトイレが整備ることから、中心市街地でのイベント開催時には、数千人単位の利用者の増加が見られ、確実に集客に寄与している。

今後、継続して拠点施設整備、商店街振興、各種集客イベントに取り組むことにより、集客機能の拡充されること、さらには臨港側の緑地整備、サブ拠点である副港市場との連携、周遊動線整備により、一層のまちなかの回遊性向上が図られ、目標の達成ができるものと考えられる。

II. 目標2「住みたい・住み続けたいマチ」づくり

「定住人口」※目標設定の考え方基本計画P87～P90参照

1. 調査結果の推移



年	単位：人
H19	2,576 (基準年値)
H20	2,484
H21	2,405
H22	2,367
H23	
H24	2,584 (目標値)

※調査方法； 中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

※調査月； 平成 22 年 10 月 1 日時点調査、10 月取りまとめ

※調査主体； 稚内市

※調査対象； 中心市街地の居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①稚内駅前地区第 1 種市街地再開発事業（稚内駅前地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【未】第 2 期 平成 24 年 3 月
事業概要	再開発ビルの第 2 期整備により 3～5 階に高齢者向け賃貸住宅 36 戸、グループホーム 18 室を整備する。
事業効果又は進捗状況	医療・交通・商業機能が整備されている中心市街地に居住施設を整備することにより、まちなか居住を希望する高齢者等の住み替えの誘導を図る。

②まちなか団地整備事業（稚内市）

事業完了時期	【未】平成 25 年度
事業概要	中心市街地活性化区域と同一の区域である「まちなか居住推進区域」、また、その南北に隣接する「まちなか居住支援区域」内に借り上げ方式による公営住宅 40 戸を整備する。
事業効果又は進捗状況	中心市街地での公営住宅の整備により、良質な賃貸住宅のストックとまちなか居住の推進を図る。

③臨港地区の規制緩和(稚内市)

事業完了時期	【実施中】平成 23 年 3 月
事業概要	JR 稚内の鉄路の港側は、臨港地区として一般の住宅建設が規制されているが、市街地との一体的な土地利用に向け、現行の分区規制を緩和・変更し、一般の住宅等の建設が可能な環境を整える。
事業効果又は進捗状況	まちなかの利便性や海を身近に感じることができる「まちなか居住」の一層の推進により、中心市街地の定住人口の増加につなげる。

④まちなか居住・土地建物情報バンク事業（稚内市）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度
事業概要	「まちなか住まいの情報ポータルサイト」の構築
事業効果又は進捗状況	まちなか居住の総合となる情報ポータルサイトとして、中心市街地の空き地・空き家情報をとりまとめ、インターネットへ掲載することにより、まちなか居住の推進と中心市街地の活性化を図る。

⑤まちなか住まい相談事業（稚内市）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度
--------	---------------

事業概要	相談窓口の充実
事業効果又は進捗状況	まちなか居住の推進に向けた、市民や事業者向けの総合相談窓口の充実を図るとともに、住まい全般に係る担当部署の新設について検討を行い、まちなか居住の推進と中心市街地の活性化を図る。

3.目標達成の見通し及び今後の対策

定住人口については、中心市街地活性化事業を講じない場合、中心市街地の定住人口は、平成19年の2,576に対して、平成24年では170人減少の2,406になると予測しているが、今後の増加要因として、まちなか団地整備による増加、再開発ビルでの高齢者向け賃貸住宅・グループホームによる増加、まちなか居住推進の各種支援策による増加を見込んでいる。

現段階では、増加要因寄与するものとして「まちなか居住推進」に係る各種支援策の実施と、今年度からの助成制度としてリフォーム資金借り入れの利子補給が開始されたが、まだまだ、具体的な居住への誘引にはなっていない。

地価については、かなり下げ止まってきたが、まだまだ南地区と比較しても高めであり、まちなか居住の利便性を考慮しても割高と感じられている。

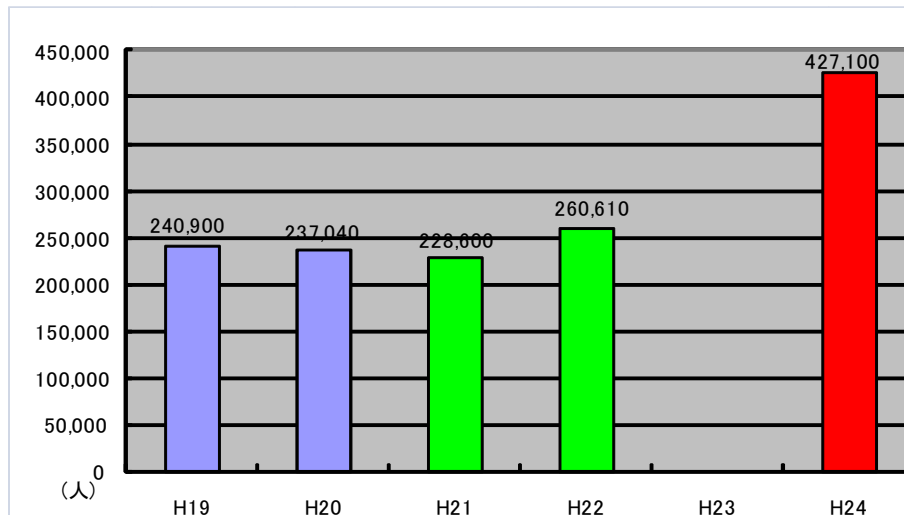
今後、再開発ビルの2期工事が完了し、高齢者賃貸住宅やグループホーム・交流施設が整備と商業各店舗整備事業（地元核店舗の立替）も実施が予定されている。また、既存の医療や行政、交通機能に加え、アメニティや散策路など住環境が一層向上することから、目標の達成ができるものとする。

II. 目標3「人が集まるマチ」づくり

「中心市街地の年間主要施設入込客数」※目標設定の考え方基本計画 P91～P93 参照

1. 調査結果の推移

中心市街地の年間主要施設入込客



年	単位：人
H19	240,900 (基準年値)
H20	237,040
H21	228,600
H22	260,610
H23	
H24	427,100 (目標値)

※調査方法；各施設の入込客数

※調査月；平成23年3月末時点調査、4月取りまとめ

※調査主体；関係施設

※調査対象；複合交流施設入館者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 稚内駅前地区第1種市街地再開発事業（稚内駅前地区市街地再開発組合）

【再掲】P4参照

② 賑わい再生拠点施設整備事業（株稚内駅ビル開発）

【再掲】P6参照

③ 地域交流センター（稚内市）

【再掲】P6参照

④ 地域情報システム整備（稚内市）

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	再開発ビル内に、地域情報を提供するための掲示板やインターネットカフェ、無線LAN（Wi-Fi）等を整備する。
事業効果又は進捗状況	交通結節点であること、また、「道の駅」の指定を予定していることから、観光客向けの交通、観光、イベント情報や画像による地域紹介、周辺市町村の観光案内など、来訪者の利便性と滞留・交流空間を提供する。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の年間主要施設入込客数については、中心市街地活性化事業を講じない場合、JR稚内駅及びバスターミナル利用者の推移は、平成19年の約24万1千人に対して、平成24年では1万8700人減少の22万2千人になると予測している。今後の増加要因として、駅周辺施設整備完了の「道の駅」指定による観光拠点としての増加、地域交流センターとして多世代交流サロンや子供向けのプレイセンター、まちなか情報コーナー、新規店舗入居等による増加、さらに主力の要因として22年ぶりにオープンした映画館による増加を見込んでいる。

現在、再開発ビルの第1期工事を完了し、映画館とバスターミナルがオープンした。映画館は、当初見込みの月平均5,000人の観客を、また、再開発ビル全体についても、月平均17,500人の入館者を数えており、ほぼ予定の入込状況となっている。

再開発ビル全体の運営は、まちづくり会社である「株まちづくり稚内」がソフト・ハード管理の両面を担っており、この場を拠点として、商店街振興やコミュニティ活動の支援を展開している。

今後、平成23年春のJR稚内駅のオープン、平成24年の全体完成と、「道の駅」指定後には、ほぼ予定どおりの集客機能が発揮され、目標達成ができるものと考えている。

